

①都道府県・市区町村名	岩手県平泉町	②補助事業の種類 (どちらかに「〇」)	I	地域の文化遺産次世代継承事業
			㊦	世界文化遺産活性化事業
③実施計画の名称	世界遺産「平泉」を活用した地域活性化プロジェクト			
④実施計画期間	平成 28 年 5 月～平成 31 年 3 月			
⑤過去の補助事業実績				
平成 2 3 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成 2 4 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成 2 5 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				22, 734 千円
平成 2 6 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				7, 790 千円
平成 2 7 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				13, 042 千円
⑥計画の実施状況 (概要)				
※平成 2 8 年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。				
●25 年度実施状況				
1. 情報発信、人材育成事業				
文化遺産に関する総合的な情報発信事業(ホームページの制作)				
地域を代表する伝統芸能である南部神楽に照明をあて、南部神楽の主要演目として親しまれている義経の物語など、地域に継承される説話や文学といった無形の文化遺産を紹介するホームページを制作。新たな視点をもって地域の文化遺産の魅力を町内外に普及、発信した。				
2. 普及啓発事業				
「芸能フェスティバル～義経」の開催				
・日時：平成 25 年 10 月 12 日 ・会場：岩手県平泉町・観自在王院跡野外特設舞台				
・来場者数：3, 000 人				
・事業概要				
世界遺産「観自在王院跡」を会場に、平泉に縁の深い歴史のヒーロー～義経をテーマに、義経の物語にちなむ地域の伝統芸能や、歌舞伎舞踊などの古典芸能を一堂に集めたフェスティバルを開催。地域の有形・無形の文化遺産への町民の意識高揚を図るとともに、地域に縁の深い古典芸能に親しむプログラムを通して広く全国に地域の伝統文化資源の魅力を発信し、文化振興とともに地域活性化を推進した。同時開催イベントとして、義経にちなんで中村勘九郎・七之助らによる歌舞伎舞踊「橋弁慶」が上演された。				
3. 伝統文化親子体験教室				
平泉の文化遺産を活用した歴史文化体験事業				
・日時：平成 25 年 6 月の土日				
・事業概要				
地域の文化遺産の振興と地域活性化を推進するため、平泉の文化遺産及びそれに係わる人々の暮らしや文化に接し、わが国の歴史文化への理解を深めてもらうことを主旨とする歴史文化体験事業を実施した。また、歴史文化体験事業で開発・実施するプログラムを利用し、全国の児童生徒と保護者を対象とした旅行商品「親子で行く修学旅行」を、JR 東日本の協力を得て造成及び販売した。				

●26 年度実施状況

1. 普及啓発事業

「南部神楽フェスティバル」の開催

- ・日時：平成 26 年 8 月 24 日 ・会場：岩手県平泉町・観自在王院跡野外特設舞台
- ・来場者数：1,300 人
- ・事業概要

平泉町を中心に岩手県南部地域一帯で古くから盛んに演じられ、それぞれのコミュニティの心の支えとなって継承されてきた南部神楽の団体が平泉の舞台に集結し競演する伝統芸能の公演。公演終了後には来場者が参加するワークショップを実施。

同時開催イベント（補助対象外）として、義経にちなんで市川猿之助らによる歌舞伎舞踊「静と知盛」が上演された。

●27 年度実施状況

1. 普及啓発事業

「伝統芸能フェスティバル」の開催

- ・日時：平成 27 年 8 月 28 日 ・会場：岩手県平泉町・観自在王院跡野外特設舞台
- ・来場者数：1,013 人
- ・事業概要

前年度に引き続いて、義経逸話を歴史的記憶に残す南部神楽のうち、達谷窟毘沙門神楽(平泉町)、朴の木念仏剣舞(奥州市)、達古袋神楽(一関市)などを上演。また特別出演として、毛越寺の「延年の舞」が上演され、前年同様、公演終了後には来場者が参加するワークショップを実施。

同時開催イベント（補助対象外）として、義経にちなんで片岡愛之助らによる歌舞伎舞踊「五条橋」「吉野山」が上演された。

なお、28 年 2 月には、近藤誠一(前文化庁長官)、アレックス・カー(日本文化研究家)、藤里明久(毛越寺貫主代行)、青木幸保(平泉町長)による平泉の文化と町おこしについて、シンポジウムを開催し、町内外から 112 人以上が参加し、世界遺産の活用の方法について、活発な論議がなされた。

●28 年度実施状況

1. 情報発信事業

(1) シンポジウム：「庭園と平泉」

- ・日時：平成 29 年 2 月 5 日（日）13 時 30 分～16 時
- ・会場：毛越寺本堂大広間(毛越寺の庭園を望みながら)
- ・パネリスト：
進士五十八(元東京農業大学学長、「日本庭園の特質に関する研究」などの著書)
井上章一(建築史家、国際日本文化研究センター教授)
藤里明久(毛越寺貫主代行)、千葉信胤(平泉文化遺産センター館長)
- ・参加者：218 人
- ・事業概要

平泉の大きな文化的歴史的な価値の一つである浄土庭園に焦点を当て、庭園研究家、建築史学者、毛越寺住職などによる浄土庭園の特徴を探り、平泉にかつて栄えた仏国土の理解を図ることについて、シンポジウムを開催した。町内外から 200 人以上が参加し熱心に聞き入った。

(2) 海外向けに平泉の文化的な価値を訴えるWEBサイトの創設

・事業概要

従来の海外向けウェブサイトは主として景観や建造物中心の観光情報を主にしたものであったため、世界的な価値と認定された平泉の文化的な価値を「平泉の歴史的な繁栄」「仏国土」「庭園」などキーワードに分かりやすく且つ充実した海外に紹介するウェブサイト（英語、繁体字、タイ語）を開設した。新たな視点をもって平泉の文化遺産の価値を海外に発信した。

2. 普及啓発事業

「伝統文化フェスティバル」の開催

・日時：平成28年9月22日 ・会場：岩手県平泉町・観自在王院跡野外特設舞台

・来場者数：2,025人

・事業概要

平泉文化遺産センター館長の千葉信胤氏の基調講演を始め、平泉の長い歴史と宗教文化をとりあげ、町民や子どもたちが平泉に対する誇りと愛着を持つことを目指し、毛越寺の延年の舞、町に伝わる達谷窟毘沙門神楽、岩手の神楽を代表して早池峰神楽を上演した。町内をはじめ県内・県外から約2,000人の参加者を集め平泉の文化と歴史について理解を深めることができた。

また、同時開催イベント（補助対象外）として、市川海老蔵らによる平泉歌舞伎を開催し「延年の舞」等が上演された。

⑦事業実施による効果等の検証・分析結果

※平成28年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。

3か年にわたる継続事業により、伝統芸能は平泉の貴重な文化遺産であることを県内外の人々へ強く意識づけることができたと同時に、観光促進と地域活性化に寄与する平泉の強いブランド力の造成に貢献できた。

また、フェスティバルとワークショップの実施により、県民の郷土芸能に対する関心や意識を向上させ、地域の文化遺産の保存と、次世代への確実な継承とともに地域の活性化へ寄与することができた。平泉町観光商工課、観光協会、商工会、郷土芸能継承団体等が連携し、事業を多方面に情報発信をおこなった結果、『平泉町観光振興計画』で目標としている観光客入込数（平成22年/189万人⇒平成29年/250万人）に向け、寄与することができた。

各事業の実施成果は次のとおり。

1. 情報発信、人材育成事業

世界遺産「平泉の文化遺産」の構成資産に関する情報発信環境は既に整備されているが、伝統芸能をはじめ、その他町内の文化財や、地域の歴史の背景にある説話や文学、その物語にちなむ史跡等の紹介は今後の課題であったが、本事業を通してそれら文化遺産の魅力を町内外に発信することが可能となり、町民はもとより全国に地域の新たな文化・観光資源の価値を喚起させることに貢献した。

(1) 情報発信事業におけるホームページの閲覧数

（目標数値）年間閲覧数10,000PV以上

（達成状況）平成25年度/年間11,094PV、平成26年度/年間8,942PV、平成27年度/年間8,650PV
平成28年度/年間9,032PV

（達成率）平成25年度/110.9、平成26年度/89.4%、平成27年度/86.5%、平成28年度/90.3%

(2) 海外向けウェブへのアクセス数

（目標数値）平成28年度/月1,000PV以上

（達成状況）平成28年度/月2,052PV（前年同月比789件増、162.4%）

（達成率）205.2%

2. 普及啓発事業

○地域の文化遺産に関する町民の認識及び関心の拡大と文化財継承に関する意識向上。

継承されている郷土芸能の数々や地域の芸能や歴史、伝統に親しむことにより、町民が地域の有形・無形の文化遺産の魅力を再発見し、地域のアイデンティティを再確認する機会となった。

- ・アンケート集計結果による意識向上率

(目標数値) アンケートで「平泉の文化遺産への関心が高まった」回答 85%以上

(達成状況) アンケートで「平泉の文化遺産への関心が高まった」回答 93%

(達成率) 109.4%

○地域の郷土芸能保存団体の活動活性化

日ごろの成果を披露する場を設けることにより、自らの芸能に誇りと愛着の意識が高まり、芸の向上と郷土芸能保存団体の活動の活性化に繋がったとともに、フェスティバルを通して地域の保存団体が交流することで、今後の継承活動に向け協働と連携の基礎を築くことができた。

- ・平成 25 年度から平成 28 年度・4 ヶ年における町内伝統芸能保存会の新規会員加入者数

(目標数値) 5 人

(達成状況) 5 人 ※保存会へのヒアリング調査による

(達成率) 100.0%

- ・平成 25 年度から平成 28 年度・4 ヶ年における中学校での伝統芸能教室

(目標数値) 4 回 (年 1 回)

(達成状況) 4 回 (年 1 回)

(達成率) 100.0%

○地域の活性化

世界遺産「平泉」の主要構成要素である観自在王院跡を会場に、地域の伝統芸能とともに花形歌舞伎俳優による地域の歴史ゆかりの演目による歌舞伎等の上演を行い、全国から多くの来場者が平泉に訪れたほか、フェスティバルの開催を通して全国に当地域の文化遺産の魅力を発信し、地域のブランド力を高めることで観光振興を含めた地域の活性化に貢献した。

- ・伝統芸能フェスティバルの来場者数

(目標数値) 平成 25 年度～平成 28 年度 4 ヶ年計/6,500 人

(達成状況) 平成 25 年度/3,000 人、平成 26 年度/1,300 人、平成 27 年度/1,000 人、平成 28 年度/2,000 人、4 ヶ年計/7,300 人

※関連事業(歌舞伎公演、平泉世界遺産祭等)を含めると 4 ヶ年計/69,200 人

(達成率) 4 ヶ年計/112.3%

- ・平泉町の観光客入込数

(目標数値) 平成 29 年/250 万人

(達成状況) 平成 25 年/214 万人、平成 26 年度/200 万人、平成 27 年度/193 万人、

平成 28 年度/200 万人

3. 伝統文化親子体験教室事業

○地域の文化遺産に関する町民の認識及び関心の拡大と文化財継承に関する意識向上

地域の未来を担う子どもたちが地域の伝統芸能を実際に体験して親しむ機会を設けることにより、町民が地域の有形・無形の文化遺産の魅力を再発見し、文化遺産ならびに文化財継承に対する意識の高揚を図る大きな機会となった。

- ・平成 25 年度から平成 28 年度・4 ヶ年における町内イベント等での謡の発表回数

(目標数値) 11 回 (年 2 回)

(達成状況) 11回 (年2回)

(達成率) 100.0%

・アンケート集計結果による意識向上率

(目標数値) アンケートで「平泉の文化遺産への関心が高まった」回答 85%以上

(達成状況) アンケートで「平泉の文化遺産への関心が高まった」回答 91%

(達成率) 107.1%

○地域の活性化

伝統芸能を「鑑賞」するだけにとどまらず「体験」することで地域の芸能への理解と共感を醸成し、将来の地域を担う子どもたちに様々な地域づくりの取り組みに不可欠な地域の誇りと地域固有の文化への愛着の心を培う機会となったほか、地域の伝統芸能の保存継承活動に対して関心を抱く機会となった。

・アンケート集計結果による意識向上率

(目標数値) アンケートで「地域の伝統芸能の保存継承への意識が高まった」回答 85%以上

(達成状況) アンケートで「地域の伝統芸能の保存継承への意識が高まった」回答 95%

(達成率) 111.8%